

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 170	提案機関名 湘南農協 営農経済部
要望問題名 水稲畦畔の管理省力化のための草種の選定と害虫忌避効果について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 現在、水田地帯において、畦畔を維持するためには、いろいろな雑草が発生しているため、年間延べ数回の刈り取りが必要である。また、刈り取り省力化のため農家によっては、除草剤の散布を行ったりしており、気象条件によっては周囲の水稲への飛散により葉害の発生も懸念される。 さらに、最近では、水稲の出穂期前後からカメムシにより被害が発生し、品質低下の原因ともなっている。 そこで畦畔の管理作業省力化と害虫忌避効果を目的に ①刈り取り回数を軽減するための草丈の低い草種 ②種子の播種により造成し短期間で被覆できる草種 ③景観に配慮し、きれいな花が咲く草種 ④カメムシ類の忌避効果が望める草種 について、取り組んでいただきたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 水稲畦畔の雑草抑制と忌避効果を期待できる草種として、ペニーロイヤルミントは水稲畦畔のカバークロップとして短期間で被覆でき（高橋，2010）、ホソハリカメムシに対して忌避効果を示すことが報告されています（川口ら，2004）。また、夏季に紫色の花が咲き、景観に配慮できると考えられます。刈り取り回数の低減についてはまだ不明ではありますが、JA全農とちぎ、JAなす、JAしおのやでは、水稲品種「なすひかり」の畦畔のカバークロップとしてペニーロイヤルミントを利用し、雑草の抑制やカメムシに対する薬剤散布回数を減らすことを目的とした試験栽培に取り組んでいます。追加情報がありましたら提供します。 高橋まさみ(2010)、グランドカバープランツ利用による畦畔雑草管理の省力化、宇都宮大紀要 川口佳則(2004)、ホソハリカメムシによる斑点米発生にペニーロイヤルミントが及ぼす影響、関西病虫研報告 46:75-76			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			